



## セロシア サンデイ・シリーズ

学名: *C. plumose*

種子粒数の目安(filmcoated): 700 から 950 粒/グラム

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用。培地の pH は 5.8 から 6.5、また EC は 0.75 mmhos/cm とする

#### 播種

1 粒または 1 ペレットを各セルに播く。トレイのサイズは 288 穴、あるいはそれよりも大きな容量のトレイを用いる。パーミキュライトで軽く覆土する。培地の水分は均等にする。防疫の観点から殺菌剤を散布する

ステージ 1 - 発芽日数は 3, 4 日

地温: 発芽温度は 20 から 22°C

光条件: 発芽には光が必要

水分: ステージ 1 ではやや湿潤の level 4 に維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 97 から 98% に維持する

#### ステージ 2

地温: 20 から 22°C

光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: ステージ 1 同様、level 4 を維持する。苗を乾燥させないように注意する

肥料: 肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC:0.7 mS/cm)で与える

#### ステージ 3

地温: 20 から 22°C

光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 培地の水分を(level 4 と level 3 の間で)少し下げるが、(乾燥ストレスで株が成熟しないうちに開花するので)苗を乾かし過ぎないように注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm (N))に上げ、EC は 0.7 から 1.2mS/cm(1:2)の範囲で維持する

矮化剤: 矮化剤は不要。切花セロシアは十分な長さを必要とするため、この段階では矮化剤は用いない

#### ステージ 4

地温: 20 から 22°C

光条件: 最大で 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同じ

肥料: ステージ 3 と同じ

#### プラグ育苗段階での留意点

セロシアは直根をつくる植物で、根が傷みやすい。根に影響が出ると、未成熟株に花芽分化が起こり、奇形花や生育の不均衡が発生することがある。したがって、定植は苗が根詰まりを起こす前に完了する。時期やプラグの大きさにもよるが、これは播種後 12 から 20 日と考えられる。この段階で、ほとんどの苗で本葉がほしい展開する

#### 定植から収穫/出荷まで

##### 定植密度

平方メートルあたり 64 から 80 本の定植が適当。支持ネットを張る

##### 土壌等

水はけがよく、消毒済みの苗床を使用。土壌の pH は 5.8 から 6.5、また EC は 0.75mmhos/cm とする

##### 温度

※ 定植から花ができ始めるまで(概ね 6 から 8 週):

昼間温度: 18 から 24°C

夜間温度: 17 から 18°C

※ 花ができ始めてからそれ以降:

昼間温度: 16°C

夜間温度: 15°C

##### 光条件

光条件はできるだけ高いレベルを維持する。遮光は光が強すぎる時だけ行う。光(強度)が不十分だったり、短日または低温などの要因は、正常な生長を妨げる(たとえば、扁平な茎や花割れの発生)ことにつながる。そのため、北西ヨーロッパのような高緯度条件では、6 月下旬以降には播種しない方が望ましい

## 日長反応

セロシアは、量的に短日植物であり、短日条件下で開花する。適切な茎の長さを得るための、ボンベイ・シリーズの理想的な日長時間は 12 から 13 時間である。短日条件下では、茎の伸張促進や適切な時期に開花させるため、日長時間を延長する場合でも 13 時間が限界とする。逆に日長時間が 13 時間を超える条件では、短日処理が必要となる。5、6 週間、12 時間の暗期条件を設定する。暗期条件の設定は、定植後 1 週おいてから開始する。短日条件の処理中は、相対湿度が上がりすぎないように注意する

## かん水

定植から花芽分化までの期間では、培地(土)を間断なく湿らせることが大切で、とくに最初の 2 週間は重要である。定植後のはじめ 10 から 14 日間は、だいたい 30 分間かん水を行うことを推奨している。つまり、それは作物の活着またその後の安定的な生育を維持する上で重要なステップとなる。この段階でセロシアの根にストレスが発生すると、根の成長が阻害され、ステムが短いうちに花芽がついてしまう。なるべく、午前中に頭上かん水の方法をとる

花芽が確認されたあとは、病気の発生を防ぎ、土を乾燥させた状態を保つために、頭上かん水は行わない。この段階では、極端に日照が続く場合や、乾燥により葉に変色が見られるときにかん水する。過剰なかん水は頭部が重くなり、茎折れや株が傾いたりする原因となるので注意する

## 肥料

セロシアは適度な肥料を必要とする植物である。レート 2(100 から 175ppm (N)、EC は 0.7 から 1.2mS/cm(1:2))の濃度で完全バランスタイプの肥料を与える。セロシアは塩類や高い EC に敏感な植物なので注意が必要

## 矮化剤(PGR)

切花品種に対しては、矮化剤は基本的に薦めていない。仮に茎が必要以上に伸びてしまつて抑制が必要な場合は、矮化剤の使用は可能である。セロシアの茎の長さを抑制する場合は、B ナインが有効である。やり方としては、(気候条件などにもよるが)丈が 30 から 50cm の時に 2,000ppm を週 1 回散布する。最終的には 3,250ppm の B ナインを散布することでそれ以上の生長は停止する

## ピンチ

ピンチは不要である

## 平均的な生産期間

播種から定植まで(288 穴プラグ): 2 から 3 週

定植から開花まで: 12 から 16 週  
(適切な日長条件と温度域のもとで)

播種から開花まで: 14 から 18 週  
(適切な日長条件と温度域のもとで)

※ サンデイ・シリーズは、ボンベイ・シリーズの品種よりも約 2 週開花が晩生である

※ サンデイ・シリーズは、適切な光条件(照度レベル)、温度、日長時間のもとであれば周年生産が可能である

## 病例等

害虫: スリップス、アブラムシ、ハモグリ、ハダニなどに注意

病気: ウドンコ病、灰カビ病などに注意

灰カビ病(ボトリティス)の防除には定植後 1 週で殺菌剤の散布を行うことを推奨している

※ サンデイ・シリーズは、施設生産用に育成されたセロシアで、条件が適切な場合に限り露地生産も可能です。収穫に先立って、花が成熟するまでの間、さらに 3、4 週ほど順化(ハードニング)させます。サンデイ・シリーズは、適正な条件では花瓶で生花として、少なくとも 2 週間もつ品種です

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

**EC 値について:** EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。